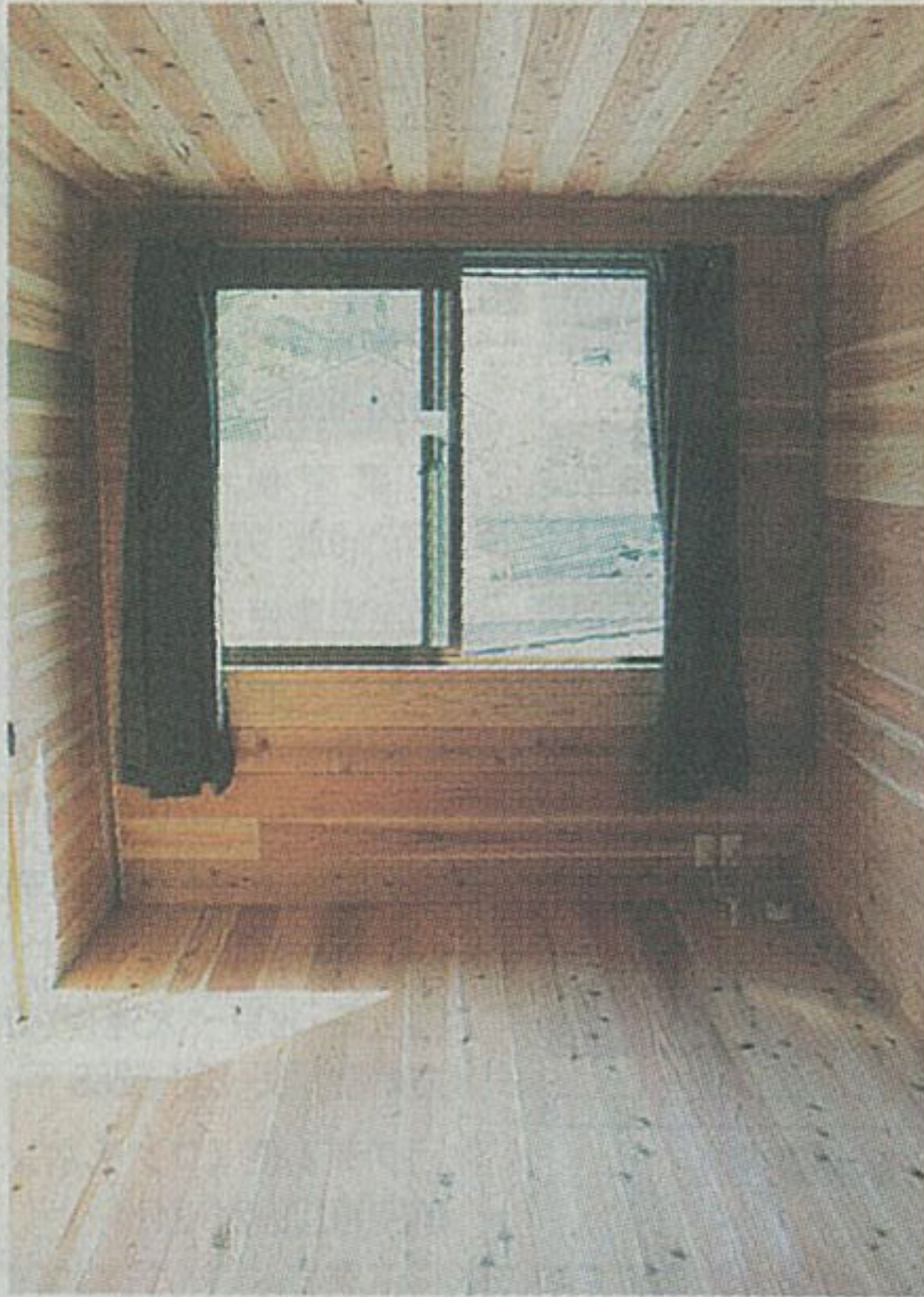


西栗倉村産のスギが一面に広がる部屋



岡山のログハウスメーカーが 「西栗倉・森の学校 岡山分校」

村産材流通を支援

二社長)が、英田郡西栗倉村の営業部隊「西栗倉・森の学校」(同村影石)の「岡山分校」を名乗り、県南部での同村産材の流通に力を入れている。ログハウス販売を通じて、同村の資源と思いを「川下」にアピールしていく。

図子社長は7年間勤めた大手ログハウスメーカーから独立し、今年2月に同社を設立した。

ログハウス建築にかかる中間マージンをカット。品質はそのままに、大手メーカーの平均坪単価を下回る価格で販売できるといふ。

図子社長は、同村の掲げる「百年の森構想」に共感。同学校は、製材品の販売ルートの構築を模索していたため、同社が同村産材の活用を引き受けた。

第1弾として、岡山市南区のリフォームを手がけ、同村産のスギとヒノキを床材などに採用した。特に、施主の理解が大きかったといふ。

さらに、同校の知名度アップなどを目的に「岡山分校」の名称使用を発案。道上正寿村長の快諾を受け、3月に契約した。本社事務所では、同村にインターネットした木工職人の雑貨なども展示している。

同学校で、製材と乾燥ができる自社工場が8月から稼働し、供給体制も整った。このため同

社は、今後はログハウスの部材の一部に同村産材を盛り込んで販売する計画を立てている。2階建て、延べ床面積1000平方メートルのログハウスの場合、30立方メートルの木材を使用しており、部分使用だけでも相当の量になるといふ。

図子社長は「まずは西栗倉村の取り組みを理解してもらおう活動から始め、川下の地場工務店で川上を元気にする仕組みができるよう取り組んでいきたい」と話している。